

8月

くまもと食・農ネットワーク設立

地域で生産されたものを地域で消費する「地産地消」。この取り組みの一つとして、生産者と消費者が食と農を一緒に考え活動するネットワークを設立。また、熊本を代表する旬のおいしい十七種類の地魚が、「くまもと四季のさかな」として選ばれました。

住民基本台帳ネットワークスタート

全国の市町村と都道府県などを専用回線で結び、本人確認ができる仕組みで、パスポートの記載事項の訂正など、住民基本台帳法に定められた事務での利用が始まりました。

9月

公衆浴場、旅館などの入浴施設の衛生管理徹底

七月末に他県の入浴施設でレジオネラ菌による集団感染が発生。県では循環式浴槽を持つ公衆浴場、旅館、社会福祉施設などに対して立入調査を実施し、衛生管理の徹底を指導しました。

10月

熊本県人権センター開設

人権教育・啓発推進の拠点として、県庁新館二階に開設しました。センターでは、同和問題をはじめとする、さまざまな人権問題の解消に向けた取り組みを行っています。



小学生への人権に関する学習風景

インキュベーション(起業化支援)施設「夢挑戦プラザ21」オープン

旧運転免許センターの一部を使って、創業者や創業間もない企業に対し、事業スペースの提供や各種相談に応じるなど、関係機関と連携して支援を行っています。

九州新幹線鹿島ルートと並行在来線「肥薩おれんじ鉄道株式会社」設立



整備が進む「新八代駅」

平成十六年春の九州新幹線開業と同時に、鹿島本線八代川内間を運行する新会社が設立されました。新幹線工事も順調に進み、「新八代〜西鹿島間」は平成十五年末の完成に向けて、高架橋などの土木工事はほぼ完了し、駅舎などの整備が進められています。

「技能五輪くまもと2002」開催

「アピリンピックくまもと2002」開催

二十一歳以下の若者と、障害者の方々がそれぞれ技能日本一を競うこの二つの大会が、同時期に同じ県で開催されたのは今回が初めてでした。本県選手は好成績を収め、また、ひたむきにもつくりの技術を競い合う選手の様子は、多くの人に感動を与えました。



技能五輪開会式



熱心に競技に取り組む選手たち(アピリンピック)

「チャレンジド・テレワークプロジェクト」発足

テレワーク(=情報通信ネットワークを活用して在宅で仕事を行う)による障害者の方々の就労・社会参加を実験的に進めるプロジェクトが始まりました。

食の安全対策の推進

食の安心につながる総合的な安全対策を講じるため、庁内に知事を会長とする「食の安全対策会議」を設置するとともに、生産から消費に至るまでの幅広い意見を県政に反映させるために「食の安全対策懇話会」を十一月に設置しました。

11月

くまもと菓子博2002開催



グランメッセ熊本会場

四年に一度開催されている全国菓子大博覧会が、熊本では初めて、グランメッセ熊本と熊本城を会場に開催されました。お菓子約一万点が勢ぞろいし、期間中、県内外から五十五万人を超える来場者でにぎわいました。

12月

「武蔵」を通して熊本の魅力を全国へ!

来年一月から始まるNHK大河ドラマの主人公は「宮本武蔵」。武蔵が最後に選んだ地「熊本」では、十月以降武蔵関連のさまざまなイベントが開催されています。来年も、武蔵を通して熊本の魅力を県内外に発信していきます。

知事室から



熊本県知事 潮谷 義子

師走を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

厳しい経済・雇用情勢が続いた一年でしたが、一方で今年は、熊本の「おもてなしの心」が大いに発揮された年になりました。ワールドカップサッカーベルギーチームのキャンプ、技能五輪、アピリンピック、菓子博と、内外から多くのお客様をお迎えし、ボランティアの方々をはじめ関係者の皆様方にさまざまな場面でご協力をいただきました。

また、今年、子育て・介護支援のためのプロジェクトをスタートさせました。夏休みに障害児を預かる事業や養護学校に看護師を派遣する事業に加え、国に提案し要件緩和が認められた「つどいの広場事業」を、県内四カ所で行うなど新たな取り組みが進んでいます。

こうした中、今年は食への信頼が大きく揺らぐ出来事が続きました。迅速で的確な対応を講じるとともに、「食の安全安心」に関する基本方針(仮称)を策定するなど、消費者の安心につながるような総合的な施策展開を図って参ります。

来年も皆様とのパートナーシップを大切にしながら一人ひとりの生命と健康が大事にされる県政の推進に努めて参ります。